

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 25  
2022・3・11

1 連邦食料農業大臣：我々はウクライナと完全なる連帯を（2022・2・28）  
ーウクライナの人々は民主主義、自由そして平和の権利をもつー

我々の完全なる連帯は、ウクライナへと進む。  
ウクライナの人々は、民主主義、自由そして平和の権利をもつ。



連邦食料農業大臣オズデミールは、  
”我々はウクライナの側に立つことを断言する。  
我々は農業への影響を、常に注視して  
いる。”

国を護る闘いーウクライナの国旗

2 オズデミール大臣：EUにおける食料の供給は危機に晒されてない  
ーEUー非公式臨時農業大臣会議が開催されるー（2022・3・2）

EUー農業大臣会議が異常な農業市場の状況に関して、臨時の非公式会議を開催した。  
ロシアのウクライナへの攻撃に直面して、  
今日（3月2日）、農業大臣会議が開催された。議題は、ロシア侵略後の農業市場の状況である。



EUとウクライナ連帯の旗

連邦農業大臣オズデミール：”私は今、ウクライナで起こっていることについて、極めて驚愕している。このロシアの国際法違反の攻撃は、我々のヨーロッパ平和秩序に対する残酷な打撃である。私は連邦大臣としてウクライナにおける食料供給を支援するために、可能な限りのことを行う。私は省と食品業界、食品流通の関係者と、密接にコンタクトをとり、そして支援対策を促進する。

世界規模での小麦の輸出では、ロシアが 10%、ウクライナが 4%を占めている。  
小麦の主たる輸入国は、特に北アフリカ、トルコそしてアジア諸国である。  
EU とドイツは、100%以上の自給率をもっている。そのため、EU 内での供給は危機的では無い。”

オズデミール大臣：” EU 内における供給は危機に晒されていない。それにも拘わらず、我々は農業市場への影響を正確に注視する。肥料と農業原料に関して、とりわけエネルギーコストの著しい価格上昇が、見込まれている。

また我々は、消費者がこの結果の中でスーパーマーケットに物資が無く、そのためそこに行けないということは無くしたい。

我々は市場の状況を世界的に極めて正確に、見守っていきたい。しかし、この状況においても、気象一環境に優しい農業奨励のために、ヨーロッパ農業政策の最初の歩みを、弱めることはしない。私は歩みを弱めることは、全く間違った道であることを明確にしたい。世界的に持続可能な食料への権利のために、我々はロシア侵略による環境破壊の危機と、決定的に闘わねばならない。”



農地面積は世界で 24 番目に大きい  
広大なウクライナの麦畑



小麦は世界の 4 %を生産する

3 連邦食料・農業省：ウクライナに食料支援のための「調整事務所」の設置  
ー我々のあらゆる連帯は全てウクライナに向けてー (2022・3・4)

ウクライナの人々は、民主主義、自由そして平和の権利と持っている。連邦食料・農業大臣 セム オズデミールは、ウクライナの側に立っていることを断言している。”我々は農業への影響を、常に視野に入れている”と、彼は述べた。連邦食料・農業省は、ドイツ食料業界のウクライナへの食料援助のために、調整事務所を設立した。



菜の花とヒマワリの黄色は  
ウクライナの象徴

この事務所は、ドイツの食料業界の食料寄付ー提供とウクライナからの公的な要請に基づいて調整する。

4 オズデミール大臣：食料援助はウクライナの人々の生存のために最重要  
ーパンなど基本食料を調整事務所を通じてウクライナへー (2022・3・4)

食料業界の寄付は、目的に沿って早急にそして効率的に組立てること。ウクライナの人々の深刻な危機を脱するために、最も必要な行動である。連邦食料・農業省は、ウクライナにおけるドイツ食料業界の食料援助のために、調整事務所を設立した。



この事務所はドイツの食料業界の寄付ー提供を、ウクライナの公的な要請と調整する。

目的は支援食料を早急にそして需要に応じて、かつ目的に沿ってウクライナに引き渡すことである。

このため、この事務所はウクライナの公的に重要な事務所と密接に連絡をとり、現地での具体的な必要に向けて、そしてドイツにおいてこの支援に関心を寄せる企業と協議する。さらにウクライナとの国境に近いハブ（拠点）に対して、食料供給の調整役を担う。

オズデミール大臣：” ウクライナの人々は、ロシアの国際法違反の侵略戦争によって、想像を絶するほどの苦しみを体験している。この食糧援助は、この危機を脱するために、どうしても必要な行動である。我々は今、ここで早急にそして広範な支援を行う。今、そのために行っている。

戦争地域の人々は、生存の危機に瀕している。そのために調整事務所は、極めて大きな貢献を果たす。私は圧倒的な援助を準備するために、ドイツのあらゆる企業にお礼を申し上げたい。我々はウクライナの側に立っている。調整事務所のチームは、食料業界の企業を支援する。企業独自の総物流管理システムを活用し、ウクライナの国境近くの貯蔵一積み替えセンターに、支援物資を複雑な手続きでなく、簡単な方法で実行させる。

今ある容量とリードタイム（訳注・生産場所から配送先までの時間）に基づき、ウクライナの拠点への収集一出荷の輸送方式でサポートする。今、緊急に必要なものは、缶詰、ペットボトルの水、ベビー子供用の食品、簡単に食べられるスナック、パンのような基本的食料（主食）、並びにペットボトルのジュースである。このリストは、ウクライナの公的事務所との密接な共同作業の中から要請され、恒常的に実現化する。”

なお、関心ある企業は今すぐに、次の Webseit [www.lebensmittelhilfe.de](http://www.lebensmittelhilfe.de) と、E メール [info@lebensmittelhilfe-ukraine.de](mailto:info@lebensmittelhilfe-ukraine.de) を通じて、調整事務所にお問い合わせできる。来週初めには、ウェブサイトのサービス電話もまた、使用可能となる。

情報：調整事務所は、連邦食料・農業省とウクライナの農業貿易相互プロジェクトの政策に、組み入れられている。



瓦礫に佇むウクライナの女の子



ロシアのウクライナ侵略に抗議する  
ブランデンブルグ門前でベルリン市民

## 5 G7ー農業大臣会議：ロシアの侵略による世界食料への影響を議論

ー 2022年5月にドイツにて開催ー (2022・3・7)

G7ー農業大臣会議を5月にドイツのバーデンーヴュルテンベルグ州で開催。

ドイツは、2022年1月1日にG7の議長職を引き継いだ。ドイツは、G7ー国家・内閣首班によって毎年開催されている、サミットのホスト国である。



連邦農業大臣セム オズデミールは、2022年5月にバーデンーヴュルテンベルグ州で、G7ー農業大臣会議に各国の同僚大臣を招待する。

2022年G7-農業大臣会議の開催される  
エルマウ城

### 農業供給チェーン：

農業分野において不足している国際環境ー社会規準の否定的な影響が、特に気象ー森林保護並びに多くの世界地域での人間の権利状況が、常に明確に見えてきている。現在の持続性のための努力と決定、複雑でしばしばまとまりが無い場合、目的達成ができていない。これは様々な国内的そして国際的な取り決め、私的なイニシアチブ、自発的なガイドラインと企業の入念な義務が存在する。このため、この目的は農ー食料業における物資供給チェーンへの理解を、奨励することである。

ドイツのG7ー議長職は、国際法違反のロシアのウクライナ攻撃を日程に挙げた。G7ー農業大臣会議は、世界規模での食料確保ため、ウクライナへのロシア侵略の結果について5月に議論する。これに該当するテーマが、小麦、トウモロコシ並びに貿易、及び食料生産のために必要な肥料にかかる市場である。

ロシアは世界的に小麦を10%、ウクライナは4%生産している。また、EUの小麦生産割合は、過去において約20%である。

連邦農業大臣オズデミール：”我々は農業市場への影響を、正確に見極める必要がある。世界的に強く上昇するエネルギーコストのために、特に肥料と農業原料の価格上昇が見込まれる。我々はこの状況に基づき、スーパーの棚に、消費者が到達できないような状況を、創り出してはならない。

既に3月初めにオズデミールの招待で、G7一農業大臣会議が農業と食料の特別会議を開催する。この会議の目的は、世界的な食料確保に関して、戦争の影響を話し合うことである。農業大臣はさらに、農業市場を安定させるために、効果的かつ迅速に実施可能な政策を決定する。ドイツにおける食料は、グローバル市場の歪みにも拘わらず、確保している。だがしかし、先週土曜日のG7一20農業市場情報システム（AMIS）の危機対応フォーラムの特別会議は、輸入に依存している国々の食料供給ルートの著しい隘路を予測している。

5月のG7一会議に際してリードする工業国の農業大臣は、農業一食料分野の重要かつグローバルな観点で、意見交換を行う。

その際の論点：持続的な農業供給チェーン並びにカーボンファーム（訳注・大気中のCO<sub>2</sub>を土壌に取り込み、農地の土壌の質を向上させ、温室効果ガスの排出削減を目指す農法）のテーマについて、共同の最終コミュニケを採択する。この声明と約束は、2022年6月にエルマウ城で開催される、国家一政府首脳のG7一サミットに組み込まれる。

G7には、ドイツ、フランス、イギリス、日本、カナダそしてアメリカが入っている。さらに全ての会議にEU一同盟が入っている。議長職は加盟国内で毎年交代で務める。ドイツは2022年始めに、イギリスから議長職を引継ぎ、2023年には日本と交代する。

### **カーボン ファーム（炭素農業）：**

炭素農業は、CO<sub>2</sub>一結合と農用地の土壌中の有機炭素を蓄積する。適切な栽培法の援助でもって空気中のCO<sub>2</sub>の一部は、土壌中に規則的に固定される。

そのことによって少しばかりだが、気象危機防止に貢献できる。具体的には例えば、腐植の強化または耕作土壌の再生である。この目的でもって、耕作方法を転換する農業者は、報酬を得るべきである。

G7は、世界的な問題解決のための重要な刺激を創り出すために、プラットフォームとして有効である。共通の価値感を基礎に。それには、ドイツ連邦食料・農業省も関連している。つまり、まさに気象危機、種の多様性のグローバルな喪失、そして世界的に飢餓と栄養不足の高い数値が示されている。将来を見据えた重要な国際的な合意の貿易のように。G7一農業大臣会議のこの会合でもって貢献する。

### 連邦食料・農業省のG7-プロセス2022における中間目標：

連邦食料・農業省は、閣僚レベルの会議に加えて、国家交渉リーダーの2つの会議が開催される。これは2022年4月と5月に、共同での最終コミュニケを準備している。5月にはバーデン＝ブリュテンベルグ州での農業大臣会議で採択される。連邦農業大臣オズデミールは、現在G20の議長国であるインドネシアからの同僚大臣を招く。

また、各団体つまり経済協力開発機構（OECD）、国連食料農業機関（FAO）の代表者も参加する。またこのプロセスには、G7-参加者グループとして Business7（ICカード Window 認証セット）、Civil7（市民オンライン ウェブサイト） Labour7（労働組合会合）、Science7（科学7-国家科学アカデミー）、Think7（英国全域の企業にビジネス通信を提供）、Women7（ドイツ女性組織全国評議会議会）、youth7（未来リーダーズ・ネットワーク）そして利害関係者も聴講できる。その際、連邦食料・農業省はこのグループに、G7-企画を通じて情報を提供する。

### 6 オズデミール大臣：ウクライナ戦争— G7の農業大臣会議を開催

—世界的に食料確保のための農業市場の安定を— （2022・3・8）

G7-農業大臣は、国際的な農産物供給状況と農業市場の安定を議論する。連邦食料・農業大臣セム オズデミールの招待で、G7-各国の農業大臣が2022年3月11日（金曜日）に、特別会議に参加する。ドイツのG7-議長職の領域において、バーチャル会議で開催される。



ウクライナ—ヒマワリは抵抗のシンボル

これは国際法違反のロシアのウクライナへの侵略による、国際的な影響が課題である。農産物と生産手段の市場が、どのように開かれているかについて、世界的な食料確保の共通分析と、問題提起が中心テーマに据えられている。

セム オズデミール大臣：“ロシアの国際法違反の侵略は、ウクライナの人々に限りない苦しみを与えている。そしてウクライナでは、今あらゆる支援を求めている。この恐ろしい状況は、世界の食料状況に、苦しい結果をもたらす。

プーチンの戦争は人間の食料を、世界的な危機の中に晒している。ドイツとEUにおける食料の確保は、確保されているが、しかし、EU以外の幾つかの国々において、供給の大きな隘路が予想される。特に今日既に生じている食料不足、例えばそれは干ばつによって。工業国においても農産物の価格上昇が排除できない。私にとって G7 一国家として食料確保の目的でもって、市場安定のための貢献を、視野に入れることが重要である。”

ウクライナの農業大臣並びに重要な国際組織— EU 委員会、FAO、AMIS（交通情報提供システム）、OECD と世界食料プログラムを招待する。この無意味な戦争は、世界の幾つかの部分で、食料供給をさらに厳しくならないように、我々は共同で配慮しなければならない。特別会議の後、連邦食料・農業者は、特別会議の結果について情報提供する。

#### 7 ウクライナへ食料を送付する調整事務所の具体的に活動（2022・3・7） —ポルトガルのウクライナ国境に近い地に貯蔵—積み替えセンター設置—

この調整事務所は、ドイツの食料業界と流通業界の支援でもって、ウクライナの人々への食料供給に貢献する。また、この調整事務所は、連邦食料・農業省のウクライナ農業当局との双方協力プロジェクト政策の中に組み込まれている。



ポーランド国境近辺に設置した現地貯蔵—積み替えセンター内の食料品

#### **調整事務所の課題：**

この事務所は、ドイツの食料業の食品寄付—提供でもって、ウクライナの公的な要請によって調整する。この目的は、ウクライナにおける必要かつ目的に合致した食料を、早急に送り込むことである。このため、ウクライナにおいて重要な公的事務所と、密接にコミュニケーションをとっている。つまり、現地で具体的に最も必要なものに方向づけられ食料を、ドイツ国内の関心をもつ企業に情報提供している。そしてさらにウクライナ国境近くに貯蔵—積み替えセンター（Hubs）を設置した。現在、ポーランドで最初の Hubs と調整している。



## どのような食料が必要か？

現在、次の食料が必要になっている（2022・3・4 現在）。

- ー 缶詰（魚、肉）
- ー 乳児一子供用の食料
- ー ペットボトル入りの水
- ー 簡単に食べれる食料（スナック、プロテインパン）
- ー パン
- ー 基礎的な食品（小麦粉、砂糖、粉状のおかゆ）
- ー ペット入りジュース

生もの食品は無し。このリストは、ウクライナの公的な機関との緊密な協力のもとに常に更新する。



この子供達に食料援助を

## 8 オズデミール連邦農業大臣：気象変動に関する政府間パネル報告を評価 ー気象保護から目をそらさず炭素蓄積の潜在力を高めるー（2022・2・28）

今日（2月28日）気象変動に関する政府間パネル（IPCC）が、第6次評価報告書の第2部報告書を公表した。

この報告書は、気象変動の結果を分析している。その際、世界中の生態系システムと生物多様性が、地域レベル並びに人間、社会そして文化、集落、インフラまで考察、分析している。



気象変動に関する政府間パネル（ipcc）

さらに公表された報告省は、気象に条件づけられたリスク減少のための適用一削減対策についての情報を提供し、そして選択肢を示している。

加えて連邦大臣オズデミールが説明した：”私は今日もまた、ウクライナの人々を憂慮している。そこは衝撃的な状況であるが、また気象保護の必要性からも、目をそらすことはできない。気象危機の克服が重要であることから、農一林業も勿論、焦点に据える。干ばつと極端な天候のもとに苦しみながら、同時に熱帯からの飼料輸入による気象危機の扇動者になっていること。

鉱物性肥料とエネルギー集約的な農薬の投入とその強化がもたらされていること。我々が対策を始めることによって、炭素蓄積のための潜在力を高め、解決の一部にすることを、私は望んでいる。湿地の保護、目的に応じた腐植の強化、気象適応可能な森林改造、新植樹一再植樹は、既に連立政権協約の具体的なポイントである。

我々は全社会的な新しい考え方を、手にしなければならない。臆病な歩みは重要でない。我々は気象大災害を阻止したいならば、早急に劇的な災害減少対策を支援しなければならないこと。そしてさらに本質的な変化が必要である。

第1歩は、ドイツにおける家畜飼育の広範な転換である（訳注・家畜飼育から生ずる炭素の削減）。我々は今、それに立ち向かっている。”

## 2021年にドイツを襲った干ばつ・異常豪雨による水害が多発



干ばつによる森林被害



洪水被害一安全への避難

2021・3・9 訳  
青森中央学院大学  
地域マネジメント研究所  
中川 一徹